

## 本校の概要

東京都立高校唯一の国際学科で IB（国際バカロレア）コースがある国際系の高校である。在籍生徒約 650 名余りで 1 学年 6 クラス。渋谷駅から電車で 2 駅の東京大学などがある駒場に所在する。生徒・教員・保護者、本校に関わる人々全体を見渡しても海外でのバックグラウンドを持っていたり多くの外国籍の方がいたり校内を歩けば、他の高校とは一風変わっていると感じる。進学も多様で国内大は全国にまで及び、海外大への進学も多い。3 本柱として外国語科目、課題研究、国際理解科目を掲げており、その中の国際理解科目の中に応募させていただいたグループが所属する授業が存在する。

## 授業の概要・目的

本校の魅力でもある国際理解科目の一科目として動画制作が内容となる「映像 B」という授業から応募している。ちなみに、「映像 A」というのは写真などの画像制作に焦点を当てた授業である。ほかにも「伝統芸能」「外国文学」「演劇」など授業の種類は分野別に多岐にわたる。2 年生の必修選択科目として複数あるこれらの科目の中から 1 つ選択するため、生徒はある程度映像に興味を持ち、専門知識なども備えている生徒が受講している。特別専門講師として外部から専門家をお招きし、毎週 2 コマ連続の授業にご参加頂き、生徒への専門的な指導をお願いしている。本校の特色から、言語コミュニケーションや PC を用いた部分も多いため日本語を苦手としている外国籍の生徒もこぞってこの科目を選択している傾向にある。

映像制作を通じて、グループで協働し、一つの作品を作ることの経験やコミュニケーション力、アイデア力、思考力を育てるとともにチームワークを活用した計画性を意識した授業となっている。「OMV コンテスト」の「世界に向けた映像メッセージ」というコンセプトからも多様な国際感覚を持つ生徒たちの互いの理解や国際理解という大きなテーマにも沿っており、こちらのコンテストに毎年応募させて頂いている。

## 年間授業の流れ

### 1 学期

★映像で自己紹介・・・・・・・・・・ 使用機器は自由。約1分。アイスブレイクイベントである。

★ONE MINUTE VIDEO 制作・・企画・撮影・編集・合評会・修正・応募まで。使用機器はビデオカメラ

### 2 学期

<昨年度>

★ドキュメンタリー作品制作・・・・・・・・学校周辺に焦点を当てるという条件付き。

<今年度>

★学校紹介動画制作・・・・・・・・・・・・・・・・東京都教育委員会 HP 掲載用動画の制作

★NATURE 甲子園コンテスト動画制作・・企画・撮影・編集・合評会・修正・応募

### 3 学期

<昨年度>

★自由制作

<今年度> (予定)

★学校紹介動画ブラッシュアップ

★ドキュメンタリー制作・・「ニュース番組風。スタジオから中継へ」という条件付き。内容はおまかせ。

## 「OMV コンテスト」に向けた授業の流れ

<使用機器・ソフト> ビデオカメラ・プレミアエレメンツ

<スケジュール>

※基本的には生徒たち本人にすべて行わせ、フォローや調整を教員で行っている。

- ① 班決め（受講者約25名を6つのグループに分ける）
- ② 「OMV コンテスト」教員・講師より詳細説明・過去動画の紹介・意図の説明
- ③ 企画・立案（絵コンテ等も含めて全体のイメージを広げる）企画案プリント・絵コンテプリント配布。
- ④ イメージが見え、絵コンテ等も固まってきたら撮影計画・撮影時の役割を決める。
- ⑤ 撮影。外出可。2コマ連続の授業の中で計画を決め、時間内に学校に戻ってくるよう指導。
- ⑥ 場合によって授業外の撮影も許可。ビデオカメラ貸し出し。
- ⑦ 素材が揃ったら、学校のPCに取り込み、編集開始。
- ⑧ 全グループが完成したところで、全体で合評会。

（受講者全員ですべての作品をスクリーンで大画面観賞。意見や感想、修正点などを全体で共有する）

- ⑨ 修正点を受けて、さらなるブラッシュアップ。応募。

<ポイント>

◎授業の始まりに各班のリーダーが本日の動きの発表をして、授業の終わりには現時点での進捗状況を発表する。

◎スケジュールに沿った動きの中で講師の方に各班の様子を見ていただいたり、アドバイスをいただいたりという状況がある。授業の冒頭、もしくは終わりのところでタイミング・状況を見て、講師の方から全体に向けてのアドバイスやポイントをお話ししてもらっている。

◎生徒たちは、日常的にスマートフォンやタブレットを用いてアプリ等で動画を作ることができる。逆にビデオカメラを触ったことがない生徒も多いため、この機会に触れてもらい、スマートフォンなどとの比較やメリット・デメリットを感じてもらいたいというねらいで使用機器はビデオカメラに限定している。編集ソフト利用も学校のPCに限っている。

◎1年次に「映像B」の科目説明の際に、TIKTOKやインスタグラムなどで扱うような動画ではないことを強調し、映像技術のことや、テレビでよく観るドキュメンタリー番組などがイメージに近いという説明をして生徒を募っているが、案外希望生徒は毎年一定数いる。

#### 授業を終えて

毎年応募させていただき、過去には最優秀賞、昨年(2023)、今年(2024)は優秀賞をいただき、受講生徒やこれから受講しようとしている1年生にも影響は大きい。できる限り、自分たちで考え、作業を進めるということ意識し、どちらかというと教員サイドは見守っていることが多いが、企画書の確認や要所でチェックし、方向を微調整している。本校の特性としてさまざまなバックグラウンドを持った生徒や外国籍の生徒が混在する中で、アイデアが生み出されるので、我々としてもアイデアや作品を見て驚くことが多い。「こんなアイデアを思いつくのか」と楽しんでいる部分も多い。生徒たちのそういった独創的な部分はこれからも大切にしていきたい。1学期の作業の中心がこの「OMVコンテスト」なのでこの企画を通じて映像制作の実際を知り、テロップを入れず映像だけで伝えたいものを伝えることの難しさを生徒たちは一番痛感するようである。その後のドキュメンタリー作品制作になるとさらに編集技術や企画力が向上していて合評会が楽しみになっている自分がある。1学期の最初の企画・制作としては打ってつけのイベントであるため、毎年この流れで授業計画を立てている。

<特別専門講師 沼田一先生からのコメント>

この授業では、学期ごとに1分から5分の動画を制作しています。私は指導・サポートするにあたって一番気をつけているのは、生徒に自分たちの企画意図をいかに生かして動画を作ってもらえるかです。もちろん外部取材などをする場合、相手先に迷惑をかけないように注意点を指導するような場合があります。しかしそれ以外は講義形式の指導は極力避け、企画、取材、構成、ロケ、編集等それぞれの作業の段階に合わせてアドバイスをしています。今やっていないことの話をして、伝わりにくいと思うからです。

また生徒たちには、それぞれの作業の段階で時間の許す限り悩んで、考えて欲しいと思っています。その時間が動画の質を上げるとともに、生活の他の場面でも役に立つと信じるからです。



映像作品の編集、特別専門講師による指導・アドバイスの様子

各グループは、校外に撮影しに行ったり、この教室で話し合っていたりと授業中は、それぞれグループの動きが異なる。